

「伝統」・「ファッション」・「アート」の融合  
丹後の匠の技をモダンに進化させた手織りブランド発信

平成22年度 採択事業



楠泰彦さん

丹後ちりめんで培われた高い技術力

丹後地域は「ちりめんの里」として全国に知られる絹織物の産地です。300年以上の伝統を誇る丹後ちりめんの優れた織り技術を活かし、オールハンドメイドにこだわった自社ブランド『KUSKA』を立ち上げたクスカ株式会社の代表、楠泰彦さん。伝統は古いという概念を打ち破ったハイセンスなコレクションを展開し、人気を集めています。

同社は、昭和11(1936)年の創業以来、丹後ちりめんの着物地を製造販売してきました。昭和59(1984)年には手織り機を導入し、和装小物も手がけるように。しかし、近年、和装の需要が激減し、丹後の織物業の生産量も最盛期の20分の1に減少。同社の業況も厳しいものでした。そんな中、機械による大量生産に疑問を感じた先代が「オリジナルの商品に力を入れたい」と平成10(1998)年に手織り機を増設し、『工房糸車』の商品名で手織り製品の販売を始めました。

当時、東京で建設業に携わっていた楠さんは、徐々に帰った実家の工房で、一越し一越し織り上げられていく見事な職人の手仕事に心を動かされ、「日本人としてこれを残していかなければ」と思ったといいます。そして、家業を継ぐ決意を固め、実家に戻って織物のいろはを学ぶことからスタート。平成20(2008)年には代表に就任しました。



熟練の職人によって「1」織り上げられていく

『手織り』に特化した商品で勝負!

楠さんは代表への就任とともに、着物地の生産を止め、手織り商品の一本化に向けて大きく舵を切りました。大量生産された商品と差異化を図るため、自社の強みを見つめ直し、「丹後でも数少なくなった手織りに力を入れてきたこと」に思い至ったといいます。「新たな価値や魅力を持ったオリジナリティのある商品でなければ勝負できません。手織りなら機械ではできない独自のテキスタイルや商品を創り出すことができますし、『メイドイン丹後』のブランド力が発揮できる分野ですからね」と楠さん。

手織り機をはじめ、糸繰り機、イタリー撚糸機などを拡充し、商品製作の全工程を自社でできる体制を整え、

ITの活用

伝統製品の活用

ショールやストール、バッグなど手織りに特化した商品づくりに踏み出しました。先代が手がけてきた「工房糸車」を商標登録し、手織りのやさしさや温かみを表現した「こだわりの逸品」として展開。なかでも話題を集めたのは「裂き織りバッグ」です。裂き織りとは、布を最後まで使い切るという先人の知恵から生まれた伝統的な技法で、古布や着物を細く裂いて緯糸にして織り込んだもの。その織布を用いたバッグは、裂き織り独自の味わいととも、リユース性も注目され、平成21(2009)年度の「Tango Good Goods(丹後ブランド)」認定商品に。同社の和装ブランドと位置づけた「工房糸車」は50代以上の女性を中心に根強い支持を得ています。



新生ブランド「KUSKA」のネクタイとストール

メンズラインを立ち上げ新たな展開

平成22(2010)年2月、新たなラインとして、30代以上の感性の高いメンズ層に軸足を置いた自社オリジナルブランド『KUSKA』を立ち上げました。打ち出したコンセプトは「昔の織り技法で今のライフスタイル」。丹後ちりめんの伝統技術を活かし、現代人が日常的に使うファッションアイテムを提案しようというもの。「伝統・ファッション・芸術」の3つを融合させ、糸作りから染め、織り、仕上げまですべて手仕事にこだわったオンリーワン商品です。ファーストラインとして、ストールやネクタイを、セカンドラインとして裂き織りの技法を用いたバッグなどのアイテムを展開。商品タグには「ALL HAND MADE in TANGO」の縫い取りを入れました。従来の流通ルートには乗せず、商品の企画から製作、営業まで自社で行なうことによって、ネクタイ1本13,000~15,000円という価格帯に設定することができました。熟練職人の手で織り上げられる生地は、機械では表現できないしなやかな風合いと重厚な質感、さらにハリやコシがあってシワになりにくいといった特長もあり、希少性の高い逸品として、本物志向のお洒落な男性ファンを獲得しています。同3月には、大手セレクトショップでの展開が決まり、ストールとタイが、東京をはじめとする同ショップ各支店の店頭に並ぶようになりました。

助成金を活用して新たな販路を開拓

新たな販路開拓の必要性を感じていた楠さんは、京都府丹後広域振興局のホームページ(以下HP)でファンドを知り応募しました。助成金を受け、東京ビッグサイトで開かれたギフトショーを皮切りに、数々の展示会に出展。関心をもったバイヤーや業界関係者をHPへ誘導することができ、認知促進につながりました。出展を機に雑誌などに紹介され、問い合わせが増えたといいます。また、助成金はHPのリニューアルにも活用。ショッピングサイトを開設したことで、丹後に居ながら全国の顧客に対応できる販売体制も構築できました。

現在、同社の商品は、セレクトショップや百貨店、インターネットでの販売に加え、他ブランドのOEM生産やアーティストとのコラボなども展開中。シンプルながら程よいカジュアル感とモード感のあるストールやタイは、豊かさや上質感を求める大人の世代だけでなく、良いものに投資して愛着を持って長く使いたいという20代の若者からも支持されています。「若い世代の人たちは、モノとしての本質やメッセージ性を感じるものを求める人が増えていますね。そういうニーズを的確に捉えながら、丹後産地としての誇りをもって高品質な商品を提案していきたい」と語る楠さん。将来は自社工房と隣接して、商品販売や工房見学、手織り体験などができるショップを開き、観光客の誘致や地域の活性化にもつなげたいとか。時代に呼応し魅力的に進化していく同社にますます注目が集まりそうです。



ビッグサイトで開催されたギフトショーの様子

事業概要

クスカ 株式会社

<http://www.kuska.jp/>

代表：楠泰彦

業種：製造・小売り業(絹織物)

創業：昭和11(1936)年 設立：昭和46(1971)年

住所：〒629-2314

京都府与謝郡与謝野町岩屋 384-1

TEL：0772-42-4045 FAX：0772-42-4731